

令和7年度

「運営に関する計画」

最終評価

大阪市立島屋小学校

令和8年2月

大阪市立島屋小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価 (総括シート)

1 学校運営の中期目標

現状と課題

○令和6年度末市学力経年調査の結果(3年生以上国語・算数・英語)、各学年の平均正答率は、国語ではすべての学年で市平均を上回った。算数では2つの学年で市平均を上回り、他の2つの学年でも、市平均からの差が1.5ポイントとほぼ同等であった。英語では、すべての学年で市平均を上回った。これまでの取組を継続し、さらに学力の向上を図る。

○令和6年4月実施の全国学力学習状況調査の結果は、国語では、全国平均を2.3ポイント以上上回っている。算数でも全国平均より3.6ポイント以上上回っている。あわせて、無回答率も、全国平均よりも良く、問題に取り組む姿勢も良好である。基礎基本を重視したこれまでの取組を継続し、さらに学力の向上を図るための取組を進めていく。

○令和6年度全国体力・運動能力、運動習慣調査の結果、体力合計点では、男子、女子ともに全国・大阪市平均を下回った。種目別にみると、男子は握力が全国・大阪市平均を上回ったがその他は全て下回っている。女子は全ての項目で全国・大阪市平均が下回っている。特に男女共「反復横跳び」「ソフトボール投げ」「20mシャトルラン」で課題がある。

また、「運動やスポーツをすることは好きですか」の項目では、肯定的な回答が、男子は全国平均を1.6ポイント上回り(全国93.2%/自校94.8%)、女子は全国平均を1.5ポイント下回った(全国86.2%/自校84.7%)。さらに、一週間の総運動時間が60分未満の児童の割合は、全国と比較して男子で3.2ポイント高く(全国%9.2/自校12.4%)、女子で8.5ポイント(全国16%/自校24.5%)高かった。昨年度から、本校の研究科目が体育科としている。研究の成果の中には、学習指導における教材と教具の工夫、他教科でも通ずる汎用性の感じられた指導などがあった。昨年度に引き続き、運動がわかる・できるようにするための授業づくりの工夫や、学年の系統性を考えた指導や年間指導計画の見直し・作成、学習環境の整備などを行っていく必要がある。

○令和6年度の不登校傾向の児童が、681人中17人で2.5%(昨年度2.6%)と昨年度よりも低くなった。個々のケースに応じた登校支援の取組を継続するとともに、教育相談コーディネーターやスクールカウンセラーとの連携を図りながら、チームとして取り組みを検討していく。

○校区が広く、30分以上かけて登校する児童や、バスで通学する児童もいる。近年の湾岸エリア開発のため、幹線道路に大型車両が多く通行する。そこで、登下校時の児童の安全に対する意識を向上させる必要がある。

○令和6年度の日本漢字能力検定では、各級の合格率が、学校全体の85%であった。引き続き漢字力の向上を図る。

中期目標**【安全・安心な教育の推進】**

- 令和7年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を100%にする。
- 毎年度末の校内調査において、新たに不登校になる児童の割合を前年度より減少させる。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 令和7年度時点での大阪市小学校学力経年調査における標準化得点の比較で、全学年国語・算数・英語において大阪市平均を上回る。
- 令和7年度時点での全国体力・運動能力、運動習慣調査において、体を動かすことが好きな児童の割合を前年度より上昇させる。

【学びを支える教育環境の充実】

- 令和7年度末の校内調査で、「授業の中で、どの程度学習者用端末を使用していますか」の質問に「ほぼ毎日」と答える割合を95%以上にする。
- 令和7年度末の教職員へのアンケートで「校内研修が充実していたと思うか」の質問に、肯定的に答える割合を、令和4年度より3ポイント以上増加させる。
- 令和7年度までに、学校閉庁日を夏季休業中4日以上、冬季休業中3日以上、春季休業中1日以上設定する。

2 中期目標の達成に向けた年度目標

【安全・安心な教育の推進】

全市共通目標(小・中学校)

- 小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を85%以上にする。
- 年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。
- 年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。
 - ◇ 前年度不登校であった児童のうち不登校の状態が解消された、または不登校状態であっても次の1～3に該当しているなど、総合的な判断により不登校の状態が改善されたとする人数を把握。
 - ◇ 改善とは、次の状態の場合をいう。(複数に該当する場合は、最も顕著な項目を選択する。)
 - ① 出席日数の増(学校内外でICT等を活用した学習活動を行うことによる出席認定含む)
 - ② ICTの活用による、本人・保護者と学校がつながる回数が増えた。
 - ③ 養護教諭、スクールカウンセラー、教育支援センターなど学校内外の専門的な指導・相談につながるようになった。または、継続してつながるようになった。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

全市共通目標(小・中学校)

- 小学校学力経年調査における「学級の友だちとの間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を47%以上(令和6年度38.8% 大阪市40.5%)にする。
- 小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント向上させる。
- 小学校学力経年調査における「理科の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を86.1%以上(令和6年度83.2% 大阪市78.7%)にする。
- 小学校学力経年調査における「外国語(英語)の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を、83.5%以上(令和6年度73.7% 大阪市76.3%)にする。
- 小学校学力経年調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を、70.5%以上(令和6年度70.1% 大阪市68.9%)にする。

【学びを支える教育環境の充実】

全市共通目標(小・中学校)

- 授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の60%以上にする。
- ①学校アンケートにおいて、「一人一台端末や大型提示装置を活用して表現する学習は、自分たちのためになっている。(楽しいですか。)」(児童)に対して、肯定的に回答する割合を80%以上にする。
 - ②「大型提示装置を活用して表現する学習を学期に1回1以上行う。」(教職員)
- 1年間で、有給休暇を10日以上取得する教職員の割合を90%以上にする。

3 本年度の自己評価結果の総括

【安全安心な教育の推進について】

児童のいじめに対する意識の向上、不登校児童の在籍比率は減少したが、保護者・児童とつながり不登校児童の改善は果たせたので、今後継続する。

【未来を切り拓く学力・体力について】

話し合い活動への取り組みの充実、算数科における基礎基本の定着の徹底、運動好きの児童の割合を増やすための取り組みを継続する。

【学びを支える教育環境の充実について】

I C T機器のさらなる活用を目指す。社会見学を通して島屋地域を知る取り組みは深化継続する。

大阪市立島屋小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準 A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標1 安全・安心な教育の推進】</p> <p>全市共通目標</p> <p>○ 小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を86%以上(令和6年82.8% 大阪市 81.5%)にする。</p> <p>○ 年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。</p> <p>○ 年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。</p> <p>◇ 前年度不登校であった児童のうち不登校の状態が解消された、または不登校状態であっても次の1～3に該当しているなど、総合的な判断により不登校の状態が改善されたとする人数を把握。</p> <p>◇ 改善とは、次の状態の場合をいう。(複数に該当する場合は、最も顕著な項目を選択する。)</p> <p>① 出席日数の増(学校内外でICT等を活用した学習活動をするることによる出席認定含む)</p> <p>② ICTの活用による、本人・保護者と学校がつながる回数が増えた。</p> <p>③ 養護教諭、スクールカウンセラー、教育支援センターなど学校内外の専門的な指導・相談につながるようになった。または、継続してつながるようになった。</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の達成状況を測る指標	達成状況
<p>取組内容① 【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】</p> <p>心の天気やいじめアンケートを活用し、児童の日々の心の状態を把握できるように努める。把握したこと(いじめ・不登校・暴力行為)を共通理解する場を設けることで、組織的に対応する。</p> <p>指標: 毎月児童の実態(いじめ・不登校・暴力行為など)を生活指導部会で話し合い、組織的に対応するとともに必要に応じて人権教育や関係諸機関(カウンセラーやSSWなども含む)との連携を図る。また、「いじめについて考える日」を学期に1回設定し、取り組みを行う。年3回(5月・10月・1月)の児童いじめアンケートを実施することで、把握できた事案に速やかに対応する。また、把握できた内容から学年に応じて必要な指導を行う。</p>	A
<p>取組内容②</p> <p>学校だより、学年だより、ほけんだより等で家庭や児童への基本的な生活習慣についての啓発を行う。また、あいさつについては、あいさつ週間を設定して意識付けをする。</p> <p>指標: 「早寝」「早起き」「朝ごはん」「規則的な排便」について、学校だより、学年だより、ほけんだよりを活用して年一回ずつ以上、それぞれの媒体で取り上げ家庭や児童へ啓発していく。</p> <p>「あいさつ」についてのアンケートをあいさつ週間の後に実施し、肯定的な回答を85%以上にする。</p>	A
<p>取組内容③</p> <p>安全に関する指導や避難訓練を実施する。また、定期的に校内の安全点検を行う。外</p>	B

部講師を招いて、不審者の侵入や地震など様々な非常事態の想定をした研修会を行い、教職員の防犯・防災意識を高める。

指標：児童の安全な教育環境の充実を図るため、月に1回安全点検を行い、修正箇所について計画的かつ確実に改善する。また、安全に関する指導や訓練を年間4回実施する。

年度目標の達成状況や取組の達成状況の結果と分析

① aabbab⇒A

計画通り進めることができ、目標を達成できた。(定期的かつ継続的な児童の実態の共有、関係人材(SC/SSW)との連携。いじめ・いのちについて考える日の設定。いじめアンケートの実施、対応。)加えて、児童支援委員会の設立とそれに伴った支援体制の構築、児童の様子を関係機関とも共通理解する場が十分に設けることができたためAとした。

② ababaa⇒A

家庭や児童へ啓発することができていた。

またあいさつアンケートにおいては、高い割合でどの学年、どの項目においても指標を大きく上回ることができていたためAとした。(別途資料参考)

③ bbbbbb⇒B

安全点検、避難訓練、教員向けの防犯訓練、計画通り実施できていた。また避難訓練に関しては行い方をいろいろ試すことができていた。

次年度への改善点

取り組み内容①の指標が数値目標でない部分があるため、次年度には整理する必要がある。また心の天気について指標に組み込むことを視野に入れる。

連携を図ることはとても価値のあることだが、時間的な負担についての工夫の余地はあるように感じる。

取り組み内容②の啓発について、アンケート等の実態把握を検討する必要がある。

取り組み内容③は自然災害はいつ何が起こるかわからないので今後も継続的に多様な避難訓練の行い方をする必要がある。

大阪市立島屋小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準 A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標2 未来を切り拓く学力・体力の向上】</p> <p>全市共通目標 (小・中学校)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 小学校学力経年調査における「学級の友だちとの間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を47%以上 (令和6年度 38.8% 大阪市 40.5%) にする。 ○ 小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント向上させる。 ○ 小学校学力経年調査における「理科の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を86.1%以上 (令和6年度 83.2% 大阪市 78.7%) にする。 ○ 小学校学力経年調査における「外国語 (英語) の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を、83.5%以上 (令和6年度 73.7% 大阪市 76.3%) にする。 ○ 小学校学力経年調査における「運動 (体を動かす遊びを含む) やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を、70.5%以上 (令和6年度 70.1% 大阪市 68.9%) にする。 	A

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の達成状況を測る指標	達成状況
<p>取組内容① 【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「総合的読解力育成カリキュラム」に基づく読解力の育成を年間35時間以上授業として取り組む。 ・「総合的読解力育成カリキュラム」についての振り返りの場を学期に1回以上設定する。 <p>指標：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか。」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を40%以上にする。 	B
<p>取組内容② 【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>島屋ガーデンを活用した体験的な活動を取り入れた生活科、理科の学習を行う。</p> <p>指標：</p> <p>島屋ガーデンを活用した学習を各学年1単元以上行い、学期毎の学校独自のアンケートで「生活科・理科の学習は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を84%以上にする。</p>	A
<p>取組内容③ 【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>算数科の学習において、放課後等を活用した補充学習の機会を設定し、個別の支援を充実させる。</p>	A

指標：「しまやタイム」を各学期2回以上実施し、算数科の学習で児童が個に応じた課題を自ら選んで学べる環境を整備する。																													
取組内容④【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】 継続的・系統的に英語のモジュール学習に取り組む。	A																												
指標：週に15分×2回の英語のモジュール学習に取り組み、学期毎の学校独自のアンケートで「外国語の学習やモジュールの活動は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を75%以上にする。																													
取組内容⑤【基本的な方向5 健やかな体の育成】 体育科を通して、子どもたちが運動の楽しさを感じ、自ら進んで運動したくなるように指導、支援すると共に運動環境を整備する。	B																												
指標：・運動場の使い方や運動のきっかけとなる取り組みを学期に1回以上企画する。 ・1週間の総運動時間が60分未満の児童を12%以下にする。																													
年度目標の達成状況や取組の達成状況の結果と分析																													
① abbcbb→B 指標を上回った学年は4つあった。総読だけでなく、様々な教科領域で話し合う活動を通して自分の考えが深まったり広がったりしていることを指導者が意識して価値付けしていくことが引き続き必要。																													
	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>1年</th> <th>2年</th> <th>3年</th> <th>4年</th> <th>5年</th> <th>6年</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>指標</td> <td colspan="6">「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか。」に対して、最も肯定的な回答が40%以上</td> </tr> <tr> <td>結果</td> <td>61.2</td> <td>52.1</td> <td>47.1</td> <td>35.1</td> <td>42.7</td> <td>38.6</td> </tr> <tr> <td>+-</td> <td>+21.2</td> <td>+12.1</td> <td>+7.1</td> <td>-4.9</td> <td>+2.7</td> <td>-1.4</td> </tr> </tbody> </table>		1年	2年	3年	4年	5年	6年	指標	「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか。」に対して、最も肯定的な回答が40%以上						結果	61.2	52.1	47.1	35.1	42.7	38.6	+-	+21.2	+12.1	+7.1	-4.9	+2.7	-1.4
	1年	2年	3年	4年	5年	6年																							
指標	「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか。」に対して、最も肯定的な回答が40%以上																												
結果	61.2	52.1	47.1	35.1	42.7	38.6																							
+-	+21.2	+12.1	+7.1	-4.9	+2.7	-1.4																							
② aaaaaa→A すべての学年で指標を上回ることができた。																													
	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>1年</th> <th>2年</th> <th>3年</th> <th>4年</th> <th>5年</th> <th>6年</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>指標</td> <td colspan="6">「生活科・理科の学習は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を84%以上にする。</td> </tr> <tr> <td>結果</td> <td>94</td> <td>95.7</td> <td>96.6</td> <td>92.1</td> <td>95.9</td> <td>89.7</td> </tr> <tr> <td>+-</td> <td>+10</td> <td>+11.7</td> <td>+12.6</td> <td>+8.1</td> <td>+11.9</td> <td>+5.7</td> </tr> </tbody> </table>		1年	2年	3年	4年	5年	6年	指標	「生活科・理科の学習は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を84%以上にする。						結果	94	95.7	96.6	92.1	95.9	89.7	+-	+10	+11.7	+12.6	+8.1	+11.9	+5.7
	1年	2年	3年	4年	5年	6年																							
指標	「生活科・理科の学習は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を84%以上にする。																												
結果	94	95.7	96.6	92.1	95.9	89.7																							
+-	+10	+11.7	+12.6	+8.1	+11.9	+5.7																							
③ aaaaba→A 学校全体の取り組みのため、全学年月1回は実施できており、習熟度に応じてプリントを選べるようにして個に応じた指導を実践していることや実際に水を測ったり計算カルタをしたりするなどの体験的な活動を取り入れることなど各学年の工夫が見られた。																													
④ aaacbb→A 指標を上回った学年は4つあった。モジュールの時間は子どもも楽しみにしている。研修が効果的であった。2つの学年では指標を達成しておらず、数値を改善する余地を残す学年もあるが、全体としてみると大きく指標を上回るため、Aとした。																													
	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>1年</th> <th>2年</th> <th>3年</th> <th>4年</th> <th>5年</th> <th>6年</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>指標</td> <td colspan="6">「外国語の学習やモジュールの活動は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を75%以上にする。</td> </tr> </tbody> </table>		1年	2年	3年	4年	5年	6年	指標	「外国語の学習やモジュールの活動は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を75%以上にする。																			
	1年	2年	3年	4年	5年	6年																							
指標	「外国語の学習やモジュールの活動は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を75%以上にする。																												

結果	89.6	94.6	93	71	77.6	72.7
+-	+14.6	+19.6	+18	-4	+2.6	-2.3

⑤ bbbcc→B

指標を上回った学年は4つ。暑さや移動教室の多さで外に出づらい様子がかえり。みんな遊びや委員会からの運動週間などの企画はできている。設問についても検討が必要。

	1年	2年	3年	4年	5年	6年
指標	1週間の総運動時間が60分未満の児童を12%以下にする。					
結果	9	11.7	10.3	9.6	17.7	20.5
+-	+3	+0.3	+1.7	+2.4	-5.7	-8.5

次年度への改善点

- ① 指標は総読のない低学年も取り組みやすいものにする。
- ② 現状通り行っていく。
- ③ しまやタイムの実施時期と回数の精選をする。
 - 学期はじめなど学習が進んでいない段階ではなしでもいいのではないか。
 - 会議や打ち合わせを減らし、担任が放課後に個別指導できる時間を増やすことも有効な方策ではないか。
- ④ 現状通り行っていく。
- ⑤ 設問については検討が必要。実態を正しく反映し、子どもにより還元できるものに変更することも考える。

大阪市立島屋小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準 A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標3 学びを支える教育環境の充実】</p> <p>全市共通目標(小・中学校)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の60%以上にする。 ○ ①学校アンケートにおいて、「一人一台端末や大型提示装置を活用して表現する学習は、自分たちのためになっている。(楽しいですか。)」(児童)に対して、肯定的に回答する割合を80%以上にする。 ○ ②「大型提示装置を活用して表現する学習を学期に1回1以上行う。」(教職員) ○ 1年間で、有給休暇を10日以上取得する教職員の割合を90%以上にする。 	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の達成状況を測る指標	達成状況						
<p>取組内容①【基本的な方向6 教育DX(デジタルトランスフォーメーション)の推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○GIGA スクール構想に基づく各種 ICT 環境整備に対応し、児童の教育活動に有益となるよう ICT 環境の構築に努める。 ○教職員、児童ともにICT機器の使用に慣れ親しみ使いこなせるように努め、児童らが意欲的、かつ楽しんで学習活動に利用できるよう指導する。 <p>指標：</p> <p>一人一台端末を用いた活動(カメラ機能、調べ学習、プレゼンテーションなど)を月に1回以上(1・2年生に関しては、学期に1回)取り組む。</p>	A						
<p>取組内容②【基本的な方向7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】</p> <p>教育環境において、学校教育活動を支える教職員自身が最大の教育環境と捉え、その教職員が体力面・精神面ともに充実した教育活動を行えるよう努める。</p> <p>指標：</p> <p>学校閉庁日を夏季休業中4日以上、冬季休業中3日以上設定する。</p> <p>ゆとりの日(放課後に予定のない日)を毎週1日設定する。</p>	B						
<p>取組内容③【基本的な方向9 家庭・地域等と連携・協働した教育の充実】</p> <p>地域活動協議会及び校区内関係諸団体との連携を強化し、登下校時の子どもの安全確保体制を確立する。また、地域諸団体と連携して地域に開かれた学校の運営に取り組む。</p> <p>指標：</p> <p>学校行事及び登下校時刻予定表により、見守り隊との連携を確実に行う。島屋安全の日には、教員による交通安全指導に取り組み、地域の方々との登下校の見守り・指導に取り組んでいく。</p> <p>児童と地域諸団体との交流行事を行い、児童に地域の一員としての自覚を高める。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 33%;">1 学期</th> <th style="width: 33%;">2 学期</th> <th style="width: 33%;">3 学期</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>住友電工の工場見学(3年)</td> <td>消防署見学(3年) はがきの書き方講座(2年) 町たんけん(2年) 日本製鉄工場見学(5年)</td> <td>見守り隊へのありがとう集会(全校)</td> </tr> </tbody> </table>	1 学期	2 学期	3 学期	住友電工の工場見学(3年)	消防署見学(3年) はがきの書き方講座(2年) 町たんけん(2年) 日本製鉄工場見学(5年)	見守り隊へのありがとう集会(全校)	B
1 学期	2 学期	3 学期					
住友電工の工場見学(3年)	消防署見学(3年) はがきの書き方講座(2年) 町たんけん(2年) 日本製鉄工場見学(5年)	見守り隊へのありがとう集会(全校)					
<p>※地域諸団体とは・・・企業以外の地域の人(地域活動協議会、島屋保育所など)</p>							

年度目標の達成状況や取組の達成状況の結果と分析

① AAABAA→A

学習者端末利活用率（5月～12月）を見ると、（5月→87.6%、6月→84.1%、7月→87.8%、8月→70.8%、9月→84.7%、10月→79.5%、11月→84.8%、12月→85.2%）である。1年間を通じて、年間授業日の60%以上の活用を上回っている。

低学年→タブレット端末の活用に慣れ親しむところから、使える機能を少しずつ増やしている。また、デジタルドリル、タイピングや計算アプリなどを積極的に活用している。

中学年→様々な教科で使用し、日々、何かの機能（カメラ・調べるなど）を使って、楽しんで活用することができている。

高学年→すべての教科において、学習者用端末を効果的に活用しながら学習できた。児童が学習者用端末を使う技能も上がっており、できることの幅が広がっている。

② BBBB→B

互いに支えあう教職員の関係が構築できており、行事や校内研究など充実感をもって取り組んでいる様子がある。学年をまたいだ協力体制もできつつある。また、外部人材（SC・SSW）などの人材の確保と連携、職員のためのスペース（環境整備）の計画などが進んでいる。

学校閉庁日、ゆとりの日を計画通り設定している。

③ BBBB→B

交流行事については、計画通り実施できている。見守り隊の連携は確実に行うことができている。また、USJとのコラボ企画や、児童の作品を展示（桜島ゲートパーク企画）など、地域団体との交流行事を行った。

次年度への改善点

① 各学年で必要なスキルの検討。また、実生活につながるICT機器利用スキル、情報モラル教育、情報リテラシーなどの定着を図っていく必要がある。

② ゆとりの日にも、参観などの行事前であることや放課後に会議、研修（対象を決めた）等が入ることがあった。また、ゆとりの日、閉庁日の設定（基準・日程・日数）が適切にされているのかを検討する。学校閉庁日やゆとりの日を設定するだけでは、教職員の体力面・精神面の充実につながりづらい部分がある。教職員によって働き方は違うので、「充実」も様々である。教職員一人一人が「充実」を感じられるような教育活動とそれに合った指標を検討する必要がある。

③ 地域連携と関わる行事（日本製鉄の社会見学・USJ出前授業など）の日程調整については、学校行事部が主導して行う。それ以外の行事（4年浄水場など）の日程調整は、学年が行う。内容については、関わる学年で打ち合わせ等を行う。今年度行った地域連携行事については、次年度以降も継続性のあるものにできるとよい。